

若手が一気読み



Dental Start Book

これで解決！ チャレンジ総義歯

鈴木 尚 監修/横倉正典 著

A4 判変型、124 頁
定価 6,510 円
(本体 6,200 円 + 税 5%)
医歯薬出版刊



無

歯顎患者から“入れ歯が動く・外れる”ということを言われ、苦労した経験を多くの歯科医師はおもちではないだろうか。入れ歯を安定させるためには床を大きくする必要があるが、床を大きくすると外れやすくなってしまいます。いかに外れないで安定した入れ歯を作るかということは、私のような若手歯科医師のみならず、多くの歯科医師にとっての課題ではないだろうか。

本書では“ニュートラルゾーンの理論”をベースにした“下顎を中心とした総義歯作り”を学ぶことができる。全部で5編からなり、“患者さんに使ってもらえる総義歯作製法”のメカニズムとテクニックが8つのステップに分けられ細かく解説されており、誰でもその手順に沿って簡単に実践することができるようになっている。

著者は本書で、総義歯作製の要は印象採得と咬合であることを強調している。印象については、個人トレーの作製法と調整法からコンパウンドを使用した辺縁形成が、多くの写真

を用いて非常に丁寧に説明されており、読めば印象のコツがわかる。咬合については、一般的には咬合平面の設定はカンペル平面を用いて行うのだが、本書では下顎を基準として決めるニュートラルゾーンの考え方を選択し、カンペル平面を使用しないことが特徴的である。その設定した平面に対し下顎の歯列を配列するという手法を用いており、下顎義歯の安定には非常に有効だと思われる。

私を含め若手歯科医師は、どうしてもインプラント治療へ偏りがちではあるが、インプラント治療を行う場合にも元々歯のあった位置に歯および歯周組織を回復することが求められる。その基本となるのは、やはりニュートラルゾーンを意識した歯の配列であり、義歯への理解を抜きにしては語れない。

本書は義歯に対する理解を深めるために非常に重要であり、多くの歯科医師にぜひ読んでいただきたい一冊である。

鈴木英史（静岡県・鈴木歯科医院）

8

020 運動の効果もあってか、高齢者の残存歯率が増加傾向にある昨今において、総義歯症例に遭遇する機会が減少していると、よく耳にする。しかし、地域によっては新規作製もしくは再作製を依頼されることも多く、さらに超高齢化社会に突入していくこれからは無歯顎患者に総義歯を作製する機会が増えていくだろうと予測される。

私が大学を卒業してすぐのころは、何となく各個トレーで印象を行い、蠟堤で上顎のカンペル平面に合わせて下顎位の決定を行っていた。しかし、その段階ですでに下顎の基礎床が浮き上がってしまっており、それにもかかわらず裏づけのない知識だけで「この場所は覆う」「ここは避ける」など、手探りで作製を進めていった結果、特に下顎は旧義歯より不安定なものができあがってしまったというような苦い経験もあった。

総義歯症例の問診において必ずといっていい訴えは、下顎

義歯の不適合だと思う。旧義歯を見てみると咬合バランスの不調和で上顎義歯が落下し、それを舌で押さえるため下顎義歯が浮いてしまう、といった悪循環になっているケースが多いように思われる。

本書ではそのような患者の総義歯に対する不満を解決すべく、下顎を基準にする「ニュートラルゾーンの理論」に基づいた総義歯作製法を紹介している。写真やコラム、解剖学的なイラストを使い、印象採得から義歯完成まで一つひとつ、どこをチェックしながら作製していくか、何を注意していくか、を細かく記載してある。

若い先生には総義歯が口腔内で機能するイメージづくりの参考になると思われるし、経験を積んだ先生にも「ニュートラルゾーンの理論」を理解するうえで役に立つ一冊であると思う。

宮地弘治（埼玉県・歯医者杜）